



ゆづりは

堺市立図書館だより

『ゆづりは』は今号で10周年を迎えました

第11巻 第3号 (通巻41号)
発行日 平成28年12月10日
編集・発行 堺市立中央図書館
〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
電話 072(244)3811
Fax 072(244)3321

堺っ子読書フォーラム 「本とつながる 人がつながる」

読書週間の平成28年10月30日(日)に梅文化会館で「堺っ子読書フォーラム～本とつながる 人がつながる～」を開催しました。

第一部では今年の夏に中央図書館で開催した「さかい子ども司書」養成講座を中心に事例発表を行いました(講座内容については「ゆづりは」第40号に掲載)。

講座内容を図書館から説明した後、ご協力いただいたボランティアグループ「おはなしどんぐり」、「よみきかせサークルはなしのたね」の皆さんと、「さかい子ども司書」の子どもたちに感想を発表してもらいました。子どもたちには講座で学んだおはなしや読み聞かせの実演もしてもらいました。会場全体が見守る中、2つのおはなしと、1冊の大型絵本の読み聞かせをやり遂げ、参加者の皆さんの割れんばかりの拍手の中、子どもたちは達成感にあふれた表情をしていました。続けて、堺市子ども読書活動推進会議事務局より「堺市子ども読書活動推進計画」の改定に向けての報告を行い、「改定骨子案」への意見募集についてのご協力をお願いしました。

第二部では、児童文学作家の杉山亮さんに「子どもとものごたりのいい関係」と題して、「ものがたりライブ」をまじえた講演をしていただきました。

元保育士、おもちゃ作家、ストーリーテラーという多彩な経験から、子どもにとっての“ものがたり”の意義をわかりやすく興味深い話をしていただきました。講演後は「さかい子ども司書」をはじめ、会場の子供たちから多くの質問が出て、拍手と笑顔あふれるひとときでした。

第一部 事例発表

- 本と人をつなぐ～『さかい子ども司書』にチャレンジ! 事例発表
- 「堺市子ども読書活動推進計画」の改定に向けて

第二部 講演

- 「子どもとものごたりのいい関係」
児童文学作家 杉山 亮さん

「さかい子ども司書」絵本の読み聞かせ



杉山亮さんの講演の様子



杉山亮さんと「さかい子ども司書」のみなさん



児童文学作家 杉山 亮さん

山梨県在住。『空を飛んだポチ』(講談社)で第56回産経児童出版文化賞ニッポン放送賞を受賞。『のっぺらぼう』(ポプラ社)で第16回日本絵本賞、読者賞をダブル受賞。主な作品に「あなたも名探偵」シリーズ(ポプラ社)、「こども講談」シリーズ(フレーベル館)など多数の著作がある。

目次

堺っ子読書フォーラム 「本とつながる 人がつながる」	… 1
図書館情報システムを リニューアルします	… 2
シリーズ堺の〇〇 堺の偉人 河口慧海	… 2
この本で解決! ～堺市内の「駅」について～	… 3
堺かるた いろはの「ゆ」	… 3
司書のイチ押し! 「はじめてのおつかい」	… 4
堺市立図書館電話番号一覧	… 4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
ゆづりゆづりて 譲り葉の
ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。



図書館情報システムをリニューアルします

平成29年1月5日（木）、図書館情報システムをリニューアルします。より便利に使っていただけるよう、下記のような新機能を追加します。

1) 検索機能の強化

- ・入力された文字に該当する書名・著者名などを検索候補として表示します。
- ・検索結果に対応して表示されるメニューから、条件に合う本を簡単に絞り込みできます。
- ・検索結果に書影（本の表紙画像）を表示します。



2) 読書記録機能の追加

図書館で借りた本の記録を残したい方は、「読書記録」の機能を設定することで、設定後に借りた本の履歴を、ご本人のみ確認できる「マイライブラリー」に蓄積していくことができます。（図書館には履歴は残りません。）

3) デジタルアーカイブの充実

地域資料デジタルアーカイブを検索しやすく、見やすい画面にリニューアルします。

このリニューアルのため、平成28年12月26日（月）～平成29年1月4日（水）の間、全館休館します。（休館中はホームページからの検索・予約・電子図書館の利用等もできません。）ご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

シリーズ 堺の〇〇 堺の偉人 かわぐちえかい 河口慧海

河口慧海は仏教の原典を求めて、日本人で初めてヒマラヤを越え、鎖国下のチベットに入国した人物として知られています。今年は慧海生誕150年。この機会に堺出身の偉人、河口慧海について知っていただければと思います。

河口慧海は慶応2年（1866）、堺山伏町（現在の堺区北旅籠町西3丁）に樽職人の長男として生まれました。幼少期は清学院付属の寺子屋「清光堂」や錦西小学校、堺戎之町にあった土屋弘の漢学塾「晚晴書院」に学び、学問を深めました。大人になってからは東京の五百羅漢寺で働きながら哲学館（現在の東洋大学）で学び、わかりやすく正確な日本語訳のお経を日本国民に提供したいという志を深めました。そして、晚晴書院にともに通った北旅籠町の商家の跡取りであった肥下徳十郎らの支援を得て、チベット行きを敢行します。二回のチベット行きの後、慧海は持ち帰った資料を精力的に研究し、仏教やチベット研究において、多くの業績を残しました。

チベット帰国後に刊行された『西藏旅行記』は、仏教学者だけではなく民族学者、探検家にも高く評価されています。また同書は、ヒマラヤの寒さや盗賊・野生動物に悩まされる艱難辛苦の道中、チベット人を名乗りラサに潜入した後の活躍と脱出劇などが描かれ、「旅行記」というのんびりした題名からは想像できないスリリングなノンフィクションでもあります。読みやすい抄録も出版されていますので、手に汗にぎる読書体験を味わってみてはいかがでしょうか。 河口慧海肖像（堺市博物館蔵）



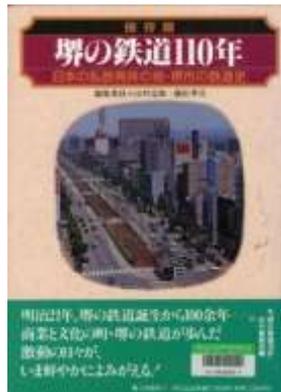
【参考文献】

- 『評伝河口慧海』奥山直司／著、中央公論新社 2009
- 『展望河口慧海論』高山龍三／編著、法蔵館 2002
- 『チベット旅行記』
- 河口慧海／著、講談社（講談社学術文庫） 2015（全2巻）
- 『チベット旅行記抄』
- 河口慧海／著、中央公論新社（中公文庫 BIBLIO）2004
- [チベット旅行記は、電子図書館でもご覧いただけます。]

この本で解決！ ～堺市内の「駅」について～

Q JR阪和線上野芝駅の歴史について記載された資料はありませんか。

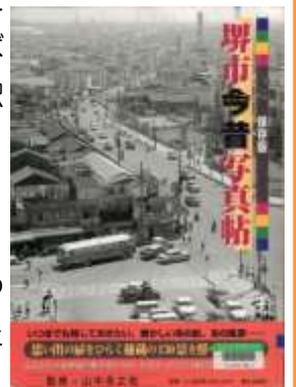
A. 『堺の鉄道110年』（郷土出版社）のP206には、「開業は昭和4年7月。かつての田園地帯も市街地化した」とあります。さらに詳しい資料として『向ヶ丘史』（堺市上野芝向ヶ丘町自治会）のP22～に、「阪和電気鉄道株式会社（現在の阪和線の前身）が、開業時特に目玉商品と考えたものの一つは上野芝の駅で、ここに線路の西、浜寄りの地区上野芝と、山手地区の向ヶ丘地区を拓いて住宅地を造成することになった」とあり、阪和電気鉄道の分譲地のための最寄り駅として造られたことがわかります。その分譲広告が面白く、住宅購入の際「特別景品付、当初の乗車券贈呈」等のサービスも付加していたことが書かれています。



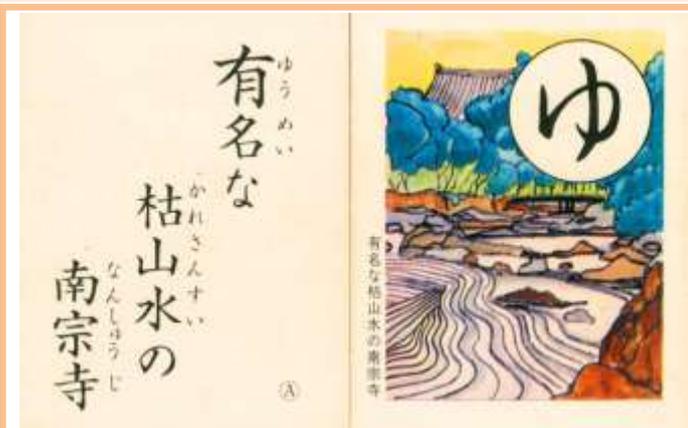
みなさんが普段よく利用する身近な存在、「駅」。今回は堺市内の駅について寄せられた質問をご紹介します。

Q 南海高野線初芝駅は、なぜ「初芝」という駅名が付いたのでしょうか。現在の周辺の地図を見ても「初芝」という地名は見当たらないのですが。

A. 『JR・私鉄全線各駅停車 別巻2』（小学館）P94に、「駅名は当初、地名からとって『西村』と呼ばれていたが昭和初期に住宅地の開発がはじまり、ふさわしい駅名を社内募集して『初芝』が第1位で当選、改称された」とあります。『堺市今昔写真帖』（郷土出版社）P102にも、「当初、村落名から西村駅と呼ばれたが、都会の人びとを住宅地に誘致するため『もえ上がる芝』にちなむ名称が喜ばれ、当地発展を意味するので駅名に採用された」とあります。『南海電気鉄道百年史』（南海電気鉄道株式会社編）P221には「初芝駅」の名付け親について、当時の貨物車掌であったと記述されています。



堺かるた - いろはの「ゆ」 「有名な枯山水の南宗寺」



南宗寺は、戦国武将・三好長慶^{みよしながよし}が祖先を供養するため大林宗雲^{だいりんそうとう}を開山として弘治3年（1557）に大規模な寺院として建てられました。創建当時は、武野紹鷗^{たけのしょうおう}、北向道陳^{きたむきどうちん}、せん利休^{せんのりきゅう}などの商人・茶人を通じて堺の町衆の文化が大いに発展しました。大坂夏の陣で堺が全焼した際、南宗寺も焼失しましたが、「元和の町割り」といわれる堺の復興事業で当時の住職であった沢庵宗彭^{たくあんそうほう}によって現在の地に再興されました。南宗寺には、茶人・古田織部^{ふるたおりべ}好みの枯山水の庭園（国の名勝庭園に指定）のほか、千家一門や武野紹鷗ら茶人の墓や供養塔があります。

参考文献

- ・ 『堺のあゆみ』 尼見清市／文 堺商工会議所 1990
- ・ 『フォーラム堺学 第3集』 堺都市政策研究所 1997

司書のイチ押し!

「はじめてのおつかい」 筒井頼子/作 林明子/絵 福音館書店

「みいちゃん、ひとりでおつかいできるかしら」ママから牛乳のおつかいを頼まれたみいちゃんは、それにこたえて、はりきって（緊張して）、お店をめざして出かけていきます。

道中、スピードを出して走り去る自転車に驚いたり、坂道を駆け上がろうとしたとたん、転んでしまってお金を落としたり、お店に着くまで緊張（試練）の連続。やっと着いたお店でも、お店の人がいなかったり、後から来た大人のお客さんに先を越されてしまったり・・・みいちゃんが牛乳を買うまでの緊張と不安な気持ちが絵を通して伝わってきます。そして、無事に牛乳を買うことができ、帰っていくみいちゃんが走る先には、迎えに来たママの姿がありました。

みいちゃんとともに読者もホッとすると同時に達成感も味わうことができます。この作品は、最初は今から 40 年前の『こどものとも』1976 年 3 月号（通巻 240 号・福音館書店）として発行されました。筒井頼子、林明子の二人にとっての、はじめての物語絵本であり、二人にとっての代表作でもあります。日本の物語絵本の傑作といわれるもののひとつであり、今も読み続けられている作品。親子 2 代（もしかしたら 3 代）で読み継がれている家庭もあることでしょう。「おつかい」それは、おとなにとってはありふれた日常的な事柄だけれども、幼い子にとっては、一大事であり、大冒険です。

文章を書いた筒井頼子さんの幼い頃の思い出と、子育ての中での実体験から生まれた作品で、

主人公みいちゃんのモデルは筒井さんの長女。絵の表現に多くの情報が盛り込まれていて、絵本の絵をじっくりと見ることの楽しさを存分に味わうことができる作品です。林さんが、絵の中に遊びをたくさん入れて読者を楽しませてくれています。「尾藤三」という表札、さがしていますの猫、絵の教室のポスター、お店の名前、電信柱の広告、逃げたインコ等々・・・他にもまだまだありますよ。

「実物を見ずには描くことができない」という林さんの言葉通り、徹底した取材を行っておはなしの舞台である町（自由が丘、田園調布界隈）の様子を描かれています。林さんは子どものころから、なんでもよく見る子で、家から学校まで何が全部言えたそうです。そんな林さんだからこそ描けた細かな表現を、ゆっくりと眺めて楽しんでみてはいかがでしょうか。

同じコンビによる作品「あさえとちいさいいもうと」「いもうとのにゅういん」でも、この「はじめてのおつかい」に出てくる人たちが登場していて、林さんの遊び心を楽しんでいただくことができます。絵本は子どもだけのものと思っていられない方も、一度じっくりと絵本を眺めて楽しんでみませんか。

(I ・ I)



堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター	船松人権歴史館
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111		

ホームページ URL <http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>